ドミニカ共和国　成果報告

２０２４年８月３日～８月１８

Asante　Sustainable　Club　　井上　文裕

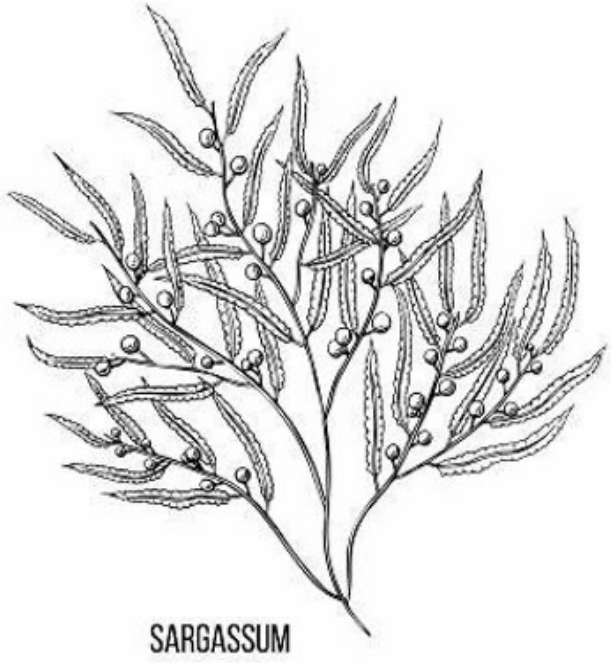
成果報告

1　環境キッズエキスパートプロジェクト
現地調査（昨年度ワークショップより）
①サルガッサム問題
②廃棄物問題

2　新年度調査

3　提案

現地調査①　サルガッサム問題



- サルガッサムという海藻の異常発生／漂着により、カリブ海沿いの国で観光や漁業に影響が出ている問題
- 河川からの栄養豊富な水の流出や、温暖化に伴う海水温の上昇が原因ではと言われているが、正確なことは分かっていない
- ホンダワラ科の海藻で、ヒジキの仲間
- 気泡を有しており、浮いたまま繁殖する
- 魚やウミガメ、カニやエビが産卵したり、棲み処にしたりする

①　サルガッサム問題

Guayacanesビーチ
・美しいビーチ
・サルガッサム見当たらず

現地調査をして
・サルガッサムは常にない
・発生する季節がある
・新しい環境問題で、
大学レベルで研究が進んでいる。

①　サルガッサム問題

INTEC大学
サルガッサムについて
専門家の講義

サルガッサムを資源化、
燃料などにして、廃棄され
る物から利用される物に
なっていることがわかった。

現地調査②　廃棄物問題

Duquesa

（オープンダンピング）

全てのごみをこの場所にそのまま捨てる

現地調査をして

・ごみの量から、物が豊富にあるドミニカ共和国の実態がよくわかった。

・最終的にここに捨てるので、分別することのよさがわかりづらい

現地調査②　廃棄物問題

LOYOLA大学
ワークショップ実施

「ごみの一生」
ごみが分解されるまで、
どのくらい時間がかかる
かを考えた。

LOYOLA大学ワークショップ

ごみの一生

生ごみ	2-5週間
新聞紙	6週間
ベニヤ板	1-3年
たばこのフィルター	1-5年
レジ袋	10-20年
アルミ缶	80-200年
紙おむつ	450年
ペットボトル	450年
釣り糸	600年
ビン	100万年

2　新年度調査

訪問させていただいた場所

８月　５（月）経済開発省（MEPyD）

６（火）環境省　intec大学　Duquesa最終処分場

７（水）Guayacanesビーチ　カープアカデミー　日系社会嶽釜会長

８（木）環境教育チーム　在ドミニカ共和国日本大使館　LOYOLA大学（ワークショップ実施）

９（金）教育省建築局　日本研修員成果報告会　RNN（TV出演）

１０（土）旧市街　博物館　ロープウェイ　日系社会瀬藤さん（ラリマール）

１２（月）mercado modero市場　高等教育・科学技術省（MESCyT）

１３（火）イベロアメリカ国家機構（OEI）

１４（水）日系社会嶽釜会長　intec大学

１５（木）ファストファッション視察　JICAドミニカ事務所にて調査報告会

2　新年度調査

ドミニカ共和国と日本との違いだけでなく、
同じところもたくさんあった

2　新年度調査

スラム街の上を通るロープウェイ

最新式のロープウェイがスラム街の上を通っていた。
市民の足として活用できるだけではなく、スラム街の上を通ることを生かして、スラム街在住の人々をガイドして雇うなどして、治安改善にも活用することを期待したい。

環境キッズエキスパートプロジェクト

実際にプロジェクトを実施しながら感じていること

・環境問題を改善、解決する手段を考えることを通して、
子供達がドミニカ共和国や世界を身近に感じることができている。

・内向きで消極的な子供達の世界を広げられている。
（世界に目を向けることができる子供達の育成）

・JICAが作成している教育プログラムで複数回に渡って実施されている
内容のものはなかったので、画期的な取組である。

3　提案①

環境キッズエキスパートプロジェクトを全国に発信していく

教育界は環境問題のプログラムが極めて少なく、特に複数回実施する「環境キッズ」のプログラムは貴重なプログラムであり、今年度は、横浜・広島・沖縄の３会場で実施するなど、広がりを見せている。次年度はさらにプログラム実施の範囲を広めていき、全国規模のプロジェクトに育てていきたい。JICAは全国規模のネットワークがあり、また、協力隊OVで教員をしている方たちも全国に多数いる。これらのネットワークを丁寧に繋げながら、ワークショップを行っていき、当該プロジェクトの信用度を高めていきたい。

ワークショップ実施にあたっては、ファシリテーターの育成も重要である。この人材育成を進めていくためにも、JICAが実施している教員向けの開発教育セミナーなどを利用し、環境教育の大切さを問いながら、ファシリテータを育てていく。

3　提案②

各学校で実施できるプログラムにしていく

「環境キッズエキスパートプロジェクト」は、既存のワークショップにはなかったスケールと奥深さがある。プロジェクトの２年間を使って築き上げた内容を、次年度以降にも実施できるように環境を整えていきたい。

新たな提案としては、「環境キッズエキスパート」をJICAだけではなく、各学校で実施できるようなプログラムにしていき、たくさんの子どもたちがこのプロジェクトにアクセスできるようにしていく。まずは横浜市内の学校から始めていき、神奈川県から全国化へつなげていきたい。

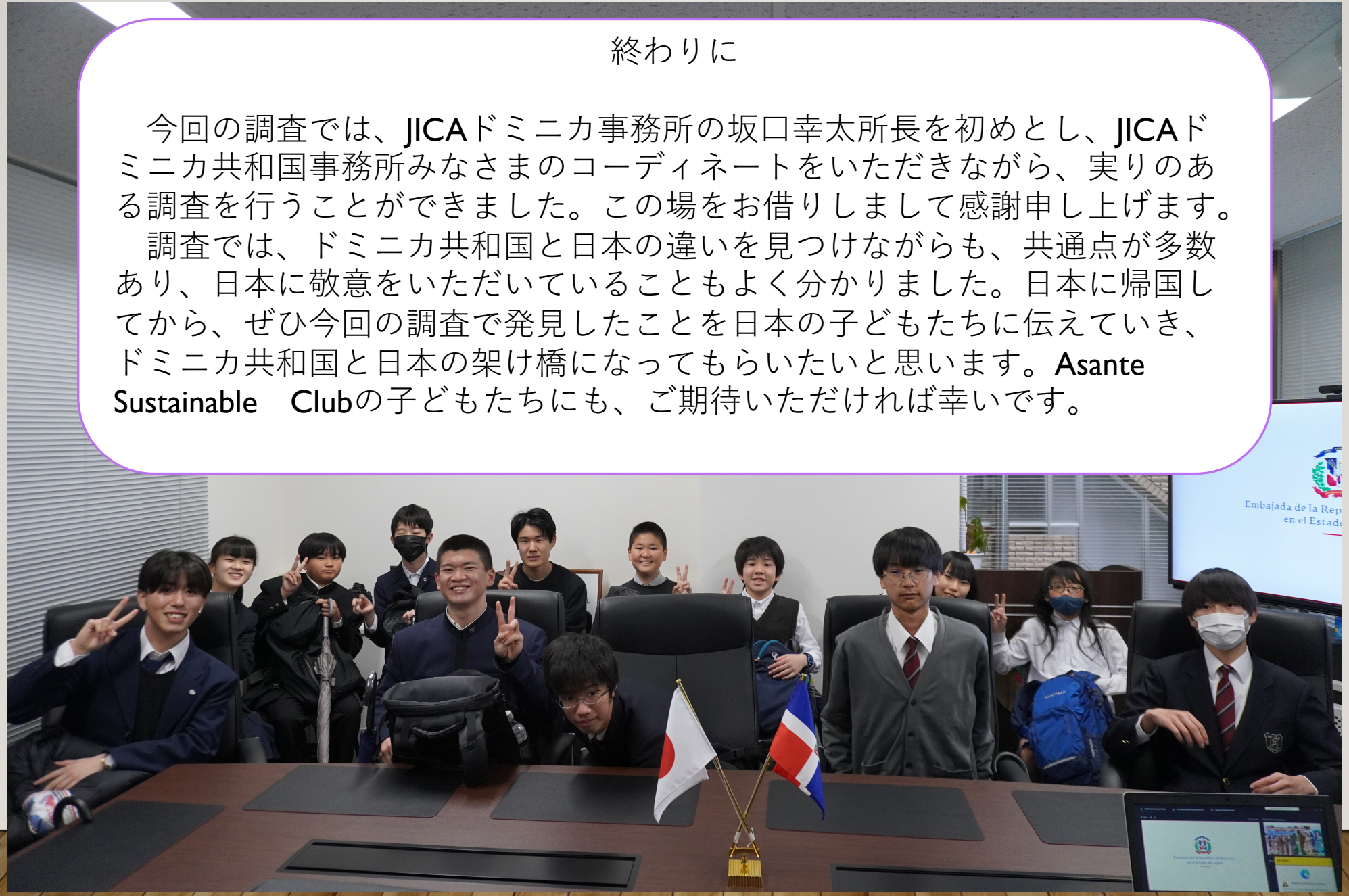
3　提案③

日系社会を学校教育の場で！先人の苦労や努力を子供達に伝えていく

日系社会の皆様は、ドミニカ共和国の環境問題についても、多大なる貢献をしている。この環境への貢献を切り口にして、日本の子どもたちに日系社会のことを伝えていきたい。

現在、日本の学習指導要領には「日系社会」という文言が記載されていない。国際協力機構の田中明彦理事長が、「日系社会」を学習指導要領への記載したい旨のコメントがドミニカ共和国であったことからも、JICAドミニカ事務所と連携しながら、「日系社会」という文言が学習指導要領に記載されるべく活動していきたい。そのためにも、まずは副教材（資料集）の作成を行い、学校での授業で「日系社会」が扱われる素地を整えていく。

終わりに

今回の調査では、JICAドミニカ事務所の坂口幸太所長を初めとし、JICAドミニカ共和国事務所みなさまのコーディネートをいただきながら、実りのある調査を行うことができました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

調査では、ドミニカ共和国と日本の違いを見つけながらも、共通点が多数あり、日本に敬意をいただいていることもよく分かりました。日本に帰国してから、ぜひ今回の調査で発見したことを日本の子どもたちに伝えていき、ドミニカ共和国と日本の架け橋になってもらいたいと思います。Asante Sustainable　Clubの子どもたちにも、ご期待いただければ幸いです。